

# 伊勢神宮へ奉納

岡太 20年に1度の椿油

岡崎市福岡町の太田油脂(太田健介社長)

で二十三日、十月の伊勢神宮式年遷宮で使用される灯火用の椿油「恭奉浄油」の奉納出發式が行われた。太田社長ら関係者約四十人が神事に出席。同社で約一カ月かけて精製された特別な油が伊勢神宮へ届けられた。同社は昭和三十七(一九六二)年から毎年、伊勢神宮へ灯火用の国産菜種油を納めているが、二十年に一度御神体が新社殿に移る式年遷宮の際だけは油煙の少ない椿油が伝統的に使用されている。同社の椿油奉納は前回(平成五年)に次いで二度目。

今回は伊豆諸島の椿の実を百キ仕入れた。品質の高さに加えて、三宅島噴火の復興

支援の意味合いも込められている。七月二十五日から搾り始め、奉納する十六キ分を搾油した。神事では椿油八キ五二つと火をともし際に必要な、い草製の芯「燈心」が同社社員に引き渡された。

太田社長は「最高の材料と技術で最高の製品ができた。二十年に一度の奉納は誇りであり、事業継承の上でも大切な行事。明るく未来を祈願しながら、無事に届けてきます」と述べ、社員らとともに

車で伊勢神宮へ向かった。内宮は十月二日、外宮では同五日のそれぞれ夜に「遷御」が行われ、同社が奉納した椿油を使った火が新社殿にともされる。

# なアート

生」をテの破片を裏返したままつなぎ

旧東邦ガス連尺シヨールムでは、豊田市出身の平川祐樹さんが一、二階で作品を披露。一階では水害を想定して



椿油の引き渡しが行われた神事  
岡崎市福岡町の太田油脂で